

# まちづくりペタンク

## モデル事業実施 に至るまで(3)

昨年の三月十七日、「ペタンクでまちづくり」をモデル事業に採択したという通知が届きました。一番に考えたことは四月に開かれる区長会・町内会町会での事業を紹介することです。四月二十日（木）に山陽地域の区長会があることが分かりました。そして五分程度の時間で事業紹介ができることになりました。「パンフレットやチラシを配って話をしよう」と思い早速チラシとパンフの作成にかかりました。同時進行で事業に後援をいただきたい赤磐市社会福祉協議会や赤磐商工会・赤磐医師会に後援のお願いをしに行きました。四月初めまでに後援承認をいただくことができました。マスコットキャラクター「あかわももちちゃん」の使用申請を出し、承認もいただきました。ポスター・チラシ・パンフレット・のぼり旗・サインの全てを四月上旬までに作り、業者に発注したのはギリギリのタイムリングでした。完成したパンフレット等が届いたのは四月十七日でした。区長一人一人に渡しやすいように透明のクリアポケットに3種類のチラシを入れて準備しました。四月二十日（山陽地域区長会）を皮切りに、二十一日（熊山・赤坂地域区長会）二十四日（吉井地域区長会）と区長会に出て、事業の紹介をさせていただきました。地域・地区のリーダーである区長さんを紹介ができただけでもうれしいことでした。事業をスムーズにスタートさせることができたと思えました。以降の実践については情報紙の1号からお読みください。（情報紙8号でも案内します）

## 体験会を要請

地区社協「とりなかむら」の会議が昨年十二月十三日にありました。八月に「ペタンクでまちづくり」の紹介をしました。体験会を開くまでの進展はありませんでした。地区役員によると、概ね「前回の時に地区の会で呼びかけてみたが、みんな農作業で忙しくて、難しいな」ということでした。

そこで、今回は次のように提案しました。「ペタンク協会が案内から準備・運営を行います。体験会を実施することを認めてもらえないか。」

この提案に対しては、  
・申込みが少なくなってもいいの？  
・申込先は区長か？区が参加者をまとめるの？  
等の心配や質問がありました。全てのことを赤磐市ペタンク協会がすることを説明し、体験会開催を認めて

したが、ネット検索「赤磐市ペタンク協会」で岡山県ペタンク連盟HPの中にある赤磐市ページが閲覧できます。ページ右側にある情報紙番号をクリックして見てください。）  
これからも、市内のいろんな場所で楽しそうな声が響き、ペタンクが多くの人に親しまれている赤磐市の姿を夢見て、着実に事業を推進していきます。市民の皆さん、この事業に参加してください。ペタンクを活用してください。（完）



ペタンククラブ高月

新しい寄せ合  
いっこクラブ  
昨年十一月から活動を始めたサークルです。お互いの顔と名前がすぐには覚えられません。今日も自己紹介から始まります。いざ試合開始。なぜか、ずっと前から友達だったような楽しい雰囲気ワイワイ言いながらボールを転がします。目標のビュットにボールを寄せ合いますが、みんなの心も不思議なくらい近寄ってきます。これこそペタンクがもつ魅力の一つです。



どっちが近い？巻尺で計測します

もらいました。そして、主催 赤磐市ペタンク協会 共催 とりなかむら でやることになりました。「案内を配るぐらいはできるよ」「今度広報あかいわが来るから、一緒にはさんで配るのがええわ」等協力の声もいただきました。



体験会（とりなかむら）の様子

当日の参加者は尾谷地区の方だけでした。呼びかけは想像以上に届かないことを痛感しました。「体験会を開けば、初心者の方が仲間と一緒に参加し、4、5人の小サークルをつくってペタンクを続ける」という仮定自体もまだまだ難しい

ことがわかりました。もつとペタンク協会が積極的にペタンクをアピールし、市民の注目を集める取組をしていく必要があります。会員の皆さんの魅力ある企画を待っています。

## ペタンク講習会 基本から学ぶ

二月十二日に瀬戸江尻レストパークドームにて講習会を開催しました。講師に佐野裕二さん（全国的な大会で幾度も優勝経験があり、現在は岡山県ペタンク連盟の会長）を招き、ペタンク



の基本から教えていただきました。  
・今までは鉄球（ボール）を転がして目標球に近づけることが多かったが、今日はふんわりと投げ上げて近づける投げ方を教えてもらった。  
・得点するには、相手ボールをはじめとばす打球が必要。いつもはあまりやらないティールの練習を行った。  
・ゲームをする場面では、チームの人と相談して、作戦を考えたり、ボールの落とす位置を指示したりして、協力することが大事であること。



## モデル事業 一年を終えて

「一年ってあっという間」歳をとるに従って、毎年思うことです。そして「十年でもすぐたつてしまふ。ということは、十年後もすぐそこまで来ている」ということなのです。人生も後半・終末を歩んでいる私たちこそ、日々暮らす地域の将来について考え、後に続く世代が「住みたい・一緒にいたい」と思える未来地域づくりに貢献する活動をしていくことが大事だと思います。

「未来づくり」は自分自身の身近な所にあります。「ペタンクでまちづくり」は身近な所に「交流と親睦の場」をつくるために取り組んでいる事業です。地域未来づくりの「第1歩」には最適のものです。何かしら地域に貢献できることをやってみたいという方はぜひこの事業に参加して、一緒に活動していきましょう。